



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／宮坂宥洪
- 副会長／北村正春・牛山幸一
- 幹事／林 裕彦
- 会報・雑誌・広報委員長／山岡晴男

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F  
Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939 ・ URL:<http://okayarc.org> ・ E-mail:[okayarc@amber.plala.or.jp](mailto:okayarc@amber.plala.or.jp)
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

## 第 2447 回例会 2009 年（平成 21 年）9 月 29 日（火）

司 会：林 靖高 ビジター：蒲池整志様（諏訪湖 RC）

点 鐘：宮坂宥洪 ラッキーNo.：No.28 北澤洋之介

齊 唱：手に手つないで

表彰：R財団 ホールハリス・フェロー 笠原祥一

マルチプル・フェロー 1 回目＝杉田隆夫・高木昭好 2 回目＝小口雅弘・尾関秀雄・平沢清文

3 回目＝大橋正明・宮坂宥洪 5 回目＝林 裕彦

米山功勞 1 回目＝井上保子 2 回目＝牛山幸一・林 裕彦 4 回目＝杉田隆夫

5 回目＝大橋正明・高木昭好・竹村一幸・宮坂宥洪 6 回目＝尾関秀雄

## 会長挨拶

本日は諏訪グループ・ガバナー補佐の渡邊芳紀様と幹事の蒲地整志様をお迎えしています。後でお話を頂戴することになっています。また例会終了後はクラブ協議会を行いますのでよろしくお願い致します。

来月は職業奉仕月間になっています。周知の通り、ロータリーに初めて奉仕という概念を提唱したのは、アーサー・フレデリック・シェルドンです。

その昔、ロータリーがシカゴで最初に創設された頃は、いかにして利潤を独占しようかと資本家が弱肉強食の競争に明け暮れていた時代であり、騙すより騙されるほうが悪いという風潮がまかり通っていた時代でした。その時、心から何でも相談できる、また語り合える友人がいたらどんなに素晴らしいことだろう。そういう発想からロータリーは生まれました。

でも、当初はまだ実は、お互いの商売を利用して儲けようという相互扶助の精神が主流を占めていたのです。この続きは次回。

## 幹事報告

- ・ 10 月のロータリーレートは 1 \$ 90 円です。
- ・ 例会終了後、記念写真を撮ります。よろしく願います。

## 委員会報告

社会奉仕委員会 諏訪湖一斉清掃 10/18(日)午前 6 時 30 分より、集合場所は温泉スタンド裏です。当日は地区大会がありますが、間に合うように 7 時まで清掃をして解散します。

多くの方のご参加よろしくお願います。尚、地区大会はホテル岡谷から 8 時出発でバスが出ます。

**親睦委員会** 10/27(火)は親睦ゴルフコンペを行います。信金のコンペと同日なので両方に参加される方は組み合わせを調整しますので申し出てください。尚、当日は移動夜間例会となります。山城屋で午後 6:30 からです。よろしくお願います。

**50 周年実行委員会** 10/13(火)の例会終了後、照光寺にて 50 年間にわたり岡谷クラブに在籍し活躍されました物故会員の慰霊法要を営みたいと思います。当日はガバナー公式訪問となります。多くの方のご参加をお願います。



## 「ガバナー補佐事前訪問」

諏訪グループ ガバナー補佐  
渡邊 芳紀 様

本年 50 周年おめでとうございます。思い返しますと今から 25 年前に我々諏訪湖RCが岡谷RCの子クラブとして誕生しました。諏訪湖RCも 25 周年を迎えます。

さて、RI会長はRCの未来は皆さんの手の中にあると言っております。この大不況の中、会員が減少しております。地区内でも昨年度、2600 名以上の減少がありました。ガバナーも大変心配されております。是非とも、会員増強をお願いしたいと言われておられました。

また、はR財団・米山への寄付のお願いですが、これは当クラブは多くの方のご協力を頂いておるようなので、今後もよろしくお願います。現在Rレートが 90 円台ですので、この機会にやって頂ければと思います。

今日は諏訪湖RCの情報委員会が4月に作成した資料を基に「決議 23-34」についてお話をさせていただきます。

### 《決議 23-34 の改廃をめぐる動き》

かつて当クラブでもあった「理論」か「行動」かという問題は 1923 年という遠い昔にすでに国際ロータリーで起こっていた問題でした。この対立から生れたのが今日話題にするご存知「決議 23-34」で、この決議をめぐる国際ロータリーの動きについてお話させていただきます。

職業奉仕を信条とする理論派とクラブとして社会奉仕を主張する行動派、双方の主張を巧妙に組み合わせたのがこの「決議 23-34」で、これにより、見事にロータリーの分裂が回避できたといわれています。この決議の内容、特に「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」は日本のロータリークラブでも奉仕活動の心のよりどころとされ、大切にされています。しかるに、この救世主であった「決議 23-34」は何度も「手続要覧」から削除されることがありました。一体どうしてでしょうか。それはRIにとってポリオ・プラス等のRI主導型の大型プロジェクトのネックになること、また、ロータリーはボランティア組織と認識している人が多いこと、性限定用語が使われていること等が理由のようです。どうしてボランティア組織と認識している人からみると評価されないのかというと、決議 23-34 の第1条がその原因となっています。即ち「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」(He profits most who serves best)というのがお気に召さないようなのです。報われることを期待するのは真のボランティアではないということでしょうか。

次に、この決議がどうしてRI主導の大型プロジェクトの邪魔になると思われているのかというと、「決議 23-34」の第5条にある「各ロータリークラブは諸活動を自主的に選ぶことについては絶対的な権利をもっている」と「どんなクラブの諸活動について、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならないものとする」という部分です。即ちクラブの自治権に関する条文がRI主導型の大型プロジェクト(ポリオプラスプログラム等)の普及活動に支障があると受け取られているようなのです。

そこで国際ロータリーは隙を見つけてはこの「決議 23-3」を無くそうと考え、手続要覧から削除したようなのです。しかし特に日本のロータリークラブではこの「クラブの自治権」や「第二モットー(He profits most who serves best)」は特に大切に考えられていて、いわばロータリー活動の心のよりどころとさえなっていたのです。

したがって、当然この決議の存続のため力を尽くしてきました。しかしこの決議は何度も手続要覧から削除・復活を繰り返し、挙句の果ては「第2モットー」の「He」を「They」に変更するなどの変遷をたどりました。

また、RIは途中で「決議 23-34」と並立して「決議 92-286」を提案しました。「決議 23-34」が奉仕の軸足を「職業奉仕」に置き、集団奉仕よりも個人々の努力を求めていること、また各RCの自治権を重んじているのに対し、「決議 92-286」は集団的奉仕の積極的推進とRIの積極的な主導方針を打出しているものであり、明らかに「決議 23-34」の考えと違ったものを並立することにより「決議 23-34」のしほりを打破したいという考えが読み取れます。その後の展開は「ロータリーの友」9月号の記事「決議 23-34 への熱き思い」を読んでいただければお分かりいただけると思います。

2007年11月RI理事会に次のような「草案X-5」が提案されました。その内容は 1.社会奉仕に関する1923年の声明が、もはや社会奉仕の理念ならびに国際ロータリーとそのクラブの原理を正確に記すものでないと判断する。 2.今後の「ロータリー章典」および「手続要覧」の改訂版からこの声明を削除するよう、事務総長に要請する。というもので、筆頭発議者は元RI副会長、ポリオ撲滅を図るRIでの最も熱心な推進役であるRIポリオプラス委員会、名誉委員長のウィリアム(ビル)・サージェント氏で、現職のエドウィン・フタRI事務総長との共同提案でした。通常一般的な案件はRI理事会がRI事務総長に提案するという形をとるのに、その事務総長自身が提案者に加わっているのに驚いたと筆者は記載しています。

小沢一彦、渡辺好政両国際ロータリー理事はRI会長、副会長はじめ主だった理事にロビー活動をするなど大変な苦勞をしましたが、結局、十分満足ではなかったものの、「歴史的な文書として保存する」という「草案B11」に賛成せざるを得なかったのです。

即ち、1.今後の「手続要覧」の改定版に、社会奉仕に関する1923年の声明を歴史的な文書として保存すること。 2.1923年の声明が歴史的な価値を有するものとして、「手続要覧」に記載されていることを言及する文を、「ロータリー章典」に含めること。

「歴史的な文書」として保存されたという聞こえはよいですが、実際には棚上げにされ、絵に描いたもちのごときものにされてしまったのです。今後われわれはこのすばらしい決議を語り継がなければならないとい越谷東RCの建材販売の会員も「ロータリーの友」2008年12月号に投稿しています。「決議 23-34」を今後残す方法としては各クラブがクラブ細則に「決議 23-34」の全文を残すしかないのではないかと考えられています。本日は「決議

23-34」について少し調べたこととお話しさせていただきましたが、この機会に「決議23-34」をもう一度じっくりかみしめ、評価してみようではありませんか。

「ロータリーの友」2009年6月号に国際ロータリー理事小沢一彦氏の最新報告で、「決議23-34」がこれまでどおり「手続要覧」に掲載されることに2009年1月のRI理事会で決定したとの事です。

## ニコニコボックス

渡邊芳紀ガバナー補佐 本日はよろしくお願ひします。

蒲池整志様(ガバナー補佐事務局) ガバナー補佐事前訪問よろしくお願ひします。

牛山幸一・太田博久・大橋正明・小口俊光・小口雅弘・小口泰史・尾関秀雄・笠原祥一・笠原新太郎・北澤洋之介・北村正春・小松正二・佐藤有司・白鳥修次・高木昭好・竹村一幸・中嶋孝一・濱

透・濱 俊弘・林 尚孝・林 裕彦・林 靖高・平沢清文・藤森睦美・宮坂 伸・宮坂宥洪・宮坂宥澄・矢崎宏明・矢島 進・矢島 實・山岡正邦・山岸邦太郎・山崎典夫 渡邊ガバナー補佐のご訪問を歓迎致します。

井上保子 9月22日に息子が結婚しました。これからもよろしくお願ひ致します。

中畑隆一・林 靖高 ナイトクルージングの写真ありがとうございました。

## 出席報告

会員数49名、出席者39名、出席率79.59%、前々回訂正85.71%

2009-2010年度RIテーマ  
ロータリーの未来は  
あなたの手に  
THE FUTURE OF ROTARY  
IS IN YOUR HANDS

